

きずなの郷

第60号
2019 夏

発行 社会福祉法人 厚生協会

令和元年9月6日

今号は令和初めての法人広報誌という事で、『平成を振り返って』を題材に、平成元年度と平成2年度に入職した職員が集い、座談会を開催しました。

座談会メンバー

- ・**片桐 徹** (現在) わかふじ寮 営業課長
(採用年月日・採用時所属) 平成元年4月1日・わかふじ寮
 - ・**米田 明美** (現在) 屈足わかふじ園 看護係長
(採用年月日・採用時所属) 平成元年6月1日・わかふじ寮
 - ・**御幸 直美** (現在) ひまわり荘 施設長
(採用年月日・採用時所属) 平成2年4月1日
・日帰りサービスセンターやすらぎ荘
 - ・**金元 貴子** (現在) やすらぎ荘 主任栄養士
(採用年月日・採用時所属) 平成2年4月1日・新得やすらぎ荘
 - ・**(座長) 福田 憲太郎** (法人広報誌第60号事務局)
屈足わかふじ園 生活係長



福田慎太郎
(屈足わかふじ園)

福田（司会） 本日はお忙しい中お集まり頂きありがとうございます。令和最初の法人広報誌として、今回「平成を振り返って」というテーマで座談会を行うことになりました。

そこで平成元年から2年に厚生協会に入職した4名の皆さんに、平成時代の思い出から、令和を迎えるにあたつての目標などについて、自由に語り合って頂ければと思います。

それではまず、**自己紹介**…といつても皆さん十分に知っている仲だと思ってますので、現在の所属、入職当時の所属、入職したきっかけなどを教えてください。

座談会

平成を振り返って

●自己紹介・厚生協会に入職したきっかけ

金元 やすらぎ荘の金元です。平成2年的新得やすらぎ荘設立時に採用募集があり、調理員として採用されました。平成3年からは栄養士として勤務しています。

片桐 わかふじ寮の片桐です。平成元年に新得物産で働いていた母より、川本実理事(当時)が新得物産と厚生協会で繋がりがあり、職員募集していると、いう話を聞き、採用試験を受けたところ、わかふじ寮の指導員として採用されました。採用されて間もなく、やられました。採用されて間もなく、やらすらぎ社で半年ほど介助員として働き、平成2年頃からは営業の仕事を行つようになります。現在に至っています。



▲左から、米田・御幸・福田・片桐・金元

両親が精肉店を開いていて、わかれじ寮と繋がりがあり、幼少の頃から厚生協会とは関わりがありました。小学生の時には授業でわかじ寮の利用者が働いている所を見学したり、やすらぎ荘のふれあい盆踊りに参加したりした思い出があります。

金元 介護保険制度が始まつた頃から、専門性という言葉が定着し、より福祉施設に求められていくようになつた気がしますよね。

祉士など、今ほど専門性が求められていたわけではなかつたし。

米田 そつ、福祉や介護は「お母さんたちの家の延長」という感じの捉え方をされていた時代でしたね。

祉士など、今ほど専門性が求められていたわけではなかつたし。

金元 確かに、地下鉄サリン事件は衝撃的でしたね。オウム真理教が起こした一連の事件は、テレビを通じて怖かったです。

災害と言うと、新得町の住民としては、平成28年の台風10号による被害が大きかったです。何よりも断水になつたのが大変でした。

米田 当時は新得地区から断水になりました、わかじ寮から屈足わかじ園のお風呂を使わせてほしいという打診があつて、良いですよと言つていた矢先に屈足地区も断水になつた経過がありましたね。

と。



米田 屈足わかじ園の米田です。元々帯広の病院で勤務していましたが、平成元年にわかじ寮の看護師枠に空きがあり、田中皎一理事長(当時)から直々に「いつでも来てください」と言って頂いたことがきっかけで、その年の6月から働き始めました。

わかれじ寮で勤務するまでは、聴覚障害の人とはほとんど関わりがない、朝夕のミーティングや勤務をしていく中で必死に覚えました。その後法人内の異動で、平成24年の5月から屈足わかじ園で勤務しています。

● 「平成」で印象に残つた出来事は?

福田 それでは話題を変えまして、平成時代を振り返つて印象に残つた出来事は何でしょうか?

米田 届定わかじ園の米田です。元々帯広の病院で勤務していましたが、平成元年にわかじ寮の看護師枠に空きがあり、田中皎一理事長(当時)から直々に「いつでも来てください」と言って頂いたことがきっかけで、その年の6月から働き始めました。

わかれじ寮で勤務するまでは、聴覚障害の人とはほとんど関わりがない、朝夕のミーティングや勤務をしていく中で必死に覚えました。

福田 ありがとうございました。それでは入職した経緯は違いますが、現在皆さんには厚生協会を支える重要な役割を担うポストで励んでおられるということで、今後も益々のご活躍をお願い致します。

御幸 ひまわり荘の御幸です。旭川の短大で栄養士の資格を取り、市内の保育所で働いていました。その後、実家の清水に戻ることになり、実際に採用試験を受けたのが厚生協会でした。その当時は就職希望者も多く、集団採用のような感じで、面接会場にも受験者がたくさんいた記憶があります。

御幸 私、平成時代の出来事をいろいろ調べてきました。例えば、Jリーグ発足、マラソンの高橋尚子さんのオリンピック金メダル、きんざんぎんさん、アムラー、たまごっち、プレイステーション、2,000円札、だんご3兄弟、地下鉄サリン事件、阪神淡路大震災、東日本大震災、直近で言うと北海道胆振東部地震かな。

片桐 その当時、男性で福祉施設を志望する人は少なかつたよね。今みたいに福祉の専門学校がたくさんあるわけではなかつたからね。

片桐・米田・金元 すこーい! よくそんなに調べてきましたね。

御幸 それに、介護福祉士や社会福祉



金元 貴子
(やすらぎ荘)



片桐 徹
(わかじ寮)



米田 明美
(屈足わかじ園)



御幸 直美
(ひまわり荘)

米田

昨年の胆振東部地震も印象に残りますね。被害に遭われた厚真りハビリの利用者の受け入れを行いました。自分たちも停電の被害に遭っている中での受け入れでしたが、振り返るととても貴重な経験をさせて頂いたと思います。

屈足では自衛隊が簡易浴場を用意してくれていて、ありがたかったね。が利用できなくなつた時の不自由さは、体験してみないとわからないよね。

御幸

当たり前に利用していたものが利用できなくなつた時の不自由さは、体験してみないとわからないよね。

米田

そう、今までニコースなどで観たことはあつても、自分が関わっていないとどうしても他人事みたいになつていきましたね。屈足わかふじ園では、当時の大雨で施設前の道路が川みたいになつていて、このまま水かさが増せば利用者を避難させなければいけないと思つたほどでした。

片桐

朝方、新得小学校の横の道路を通つたけど、午後には陥没していました。通つている時に…と思つたらゾーッとしたね。

御幸 断水もあんなんに長期化することは思わなかつた。せいぜい1日から2日で復旧すると思っていたし、タンクに溜めていた水があるから大丈夫だと…でも実際タンクの水はあつという間に無くなつてしまつたよね。

金元 私たちも先輩方に、普段から災害などの備えをしておくようにと言われていましたが、その意識が不十分だつたと痛感しています。

片桐 災害が起きた時は、情報収集がいかに大事かという事だよね。災害の規模や被害の大きさをできるだけ早く把握することによって、必要な物品も早く用意できるし。

御幸

…など、今のうちから家族と共に過ごすことがわかったりするのかと驚かれることがあります。

片桐

…など、今のうちから家族と共に過ごすことがわかったりするのかと驚かれることがあります。

金元 確かに終活はそろそろ考えなければならないですね。

御幸 ちょっとテーマとは違いますが、私の世代は終活のことも考えていましたが、いかなければならないと思います。私たちには、自分のことは自分でどう意識が強い世代だと思うので、終活も例外ではないかと。

福田 それでは最後の話題ですが、もうすでにスタートしている令和はどうな時代になつてほしいと思いませんか？

●『令和』はどんな時代になつてほしいか？

福田 平成を振り返った時、やはり最近の災害の印象のせいか、その話題に集中しますよね。ここ数年で、毎日の生活には水も電気も欠かせない必要な資源という事がわかりましたね。

片桐 ブラックアウトもある意味貴重な経験だつたな。

残りますね。被害に遭われた厚真りハビリの利用者の受け入れを行いました。自分たちも停電の被害に遭っている中での受け入れでしたが、振り返るととても貴重な経験をさせて頂いたと思います。

ておかなければならぬですよ。

えていかなければならぬと、改めて実感しました。

米田 私たちは職業上、生き死にに関わる仕事をしているので、終活もよけいリアルに感じられるかもしませんね。利用者が亡くなつたり、その家族の様子を見たりする機会が多いです。

金元 施設で利用者の葬儀をすることがありますけど、家族からすると、葬儀までやつてもうええるのかと驚かれることがあります。

御幸 家族の中には、家が遠方であつたり、家の事情で葬儀ができなかつたりする人もいるので、そういう人たちの最期を過ごす場として、これからも施設としての在り方を考えていきたいと思います。

金元 若い人には、何でもいいから自分で生きがい、やりがいを見つけて、「生きている」という実感を持つて頂きたいと思います。ただ、自分がそのように生きてきたかと言われば、自信がないのも事実ですが、振り返ればそれなりに頑張ってきたのかなと。なので、今の若い人たちが、令和時代が終わりを迎える時に、令和時代が終りを迎えたときに頑張ったな」と思えるような生きがいを見つけて頂きたいと思います。

片桐 違う違う(苦笑)。あれは入職して間もない頃だつたと思つけど、當時、職員住宅で同僚の蝦名君と同じ部屋で暮らしていたんだ。で、夜中にお腹がすいて、当時はコンビニもなかつたから、どうしようかと思つた時に、冷凍庫を開けたらジンギスカンが入つていたので、それを解凍しようと思って、部屋の風呂に入れたんだ。だからわかふじ寮の風呂

で実感しました。皆さん、本日はありがとうございました。●雑談

福田 最後に上手い具合に金元さんに締めて頂きました(一同笑)。厚生協会で言うと、自分からすれば「昭和」時代の諸先輩が築きあげたものを、本日お集まり頂いた皆さんたちが引き継ぎ、次の世代へ繋げていくために、「平成」時代から「令和」時代へは、我々世代がその伝統を伝

米田 まるで夫婦みたいにいじやない(一同大爆笑)。



平成30年度 法人本部及び各施設・事業所の事業報告

■法人本部

平成30年度は働き方改革関連法案の施行に伴い、年次有給休暇の取得に関する諸規定の見直し、又職員の定年延長(60歳から65歳へ)を行った。

災害対応については9月に発生した北海道胆振東部地震において、三法人連絡協議会の災害支援協定に基づき、被災された(社福)北海道厚真福祉会の利用者の受け入れ対応等を行った。法人の施設整備等の事業については「中・長期計画」に沿って実施した。

このような状況の中、法人全体で経費削減に取り組むと共に、利用者サービスの向上と運営の安定に向け事業計画に基づき以下の事業を実施した。

理事会開催(5回)、監事監査(4回)、評議員会開催(2回)建設委員会(3回)、役員研修(1回)、顧問契約(松浦弁護士)、監査契約(富士道公認会計士)、本部各専門委員会(管理部会、施設・在宅事業部会、就労センター部会、研修部会)

■わかふじ寮・第2わかふじ寮・わかふじワークセンター

利用者の高齢化や障害の重度化への対応については、支援の状況の現状把握を行い、ケース会議などで作業面、生活面で対策を検討、情報を共有し対応を行った。

新得高等支援学校との連携については、年間を通して、現場実習、校外作業学習の受け入れを行った。又誕生祝い品贈呈事業でも連携を図り取り組みを行った。

新規利用者の受け入れについては、利用者の高齢化や待機利用者の減少に伴い、対象利用者を聴覚障害者に加えて知的障害者、精神障害者について受け入れの種別を拡大した。

施設整備に関しては、厨房の床の修繕及び厨房機器の更新を行った。

①生活支援部門 高齢化による利用者の身体・精神状況の変化を確認し、支援体制の変更について検討を行った。

②医療部門 冬季間においては感染症予防が的確に行なえるように、各部署と連携を図った。又町内、管内の感染症の動向等を把握して予防が早期に実施できるよう情報収集を図った。職員、職員家族の罹患時は対応方法に沿って自宅療養などの指示を行った。

③授産事業部門 売上確保や利益向上を目標に事業振興に取り組み、補正予算後の売り上げ目標は達成することが出来た。作業工程についても、利用者個々の作業能力にあった作業配置の変更も行なったが、更なる高齢化による生産能力の低下は避けることができず、職員が生産の大半を担う取り組みとなつた。

■わかふじ寮相談支援事業所

利用者が自立した生活を送ることができる様に、希望や要望の聞き取りを行い、本人の意向を基本としながら必要と思われる事柄について助言を行つた。

又サービス等利用計画案の作成においては、利用者の状況や事業所での支援状況を基に見直しを行つた。

■共同生活援助事業所 さくら

利用者への支援については、個別支援計画に基づき地域で落ち着いて生活ができる様に、「地域生活上のルール」又は身の周りの事など自立した生活を送る事ができる様に支援を行つた。

食生活については家庭的で偏りのない食事を提供する事を基本とし、利用者の嗜好や季節に合った献立で提供できる様に対応した。

■厚生協会新得白生舎

社会福祉法による授産施設として、利用者の心身の能力に応じ、作業を分担し業務に取り組み、怪我・事故の無いよう配慮し、利用者の福利厚生の向上に努めた。

また、生産性・品質等を向上させ、顧客のニーズに合わせた営業展開を行い、顧客満足度向上に向けたサービスを行つた。

■聴覚障害者養護老人ホーム やすらぎ荘

老人福祉法及び関係法令及び通知に基づき、利用者の自立支援の為のソーシャルワーク機能を強化し、利用者の生活意欲の増進等を図り、生きがいをもち健全で安らかな生活ができるように努めた。新規利用者の獲得については、市町村や居宅介護支援事業所などの関係機関との密接な連携を図ると共に、遠方の入所希望者に対しては、送迎を行い施設見学・体験などの取り組みを行うことで、入所につなぐことができた。

個別型として、より効率的なサービスを提供するため、利用者一人ひとりの心身状態の把握と各関係機関や介護サービス事業者との連携を図りサービス提供に努めた。

①生活支援部門 個別型として効率的なサービスを提供した。また、毎月支援員ミーティングやケア検討会議を開催し、サービスの適正を図った。

②医療部門 常に利用者の全身状態を把握し、異常時は担当医へ報告し、医療機関を受診した。

■特別養護老人ホーム 新得やすらぎ荘

利用者にとってより良い介護サービスが提供出来るよう、業務改善や介護職員の勤務時間を変更する等の対策に努めた。

新規利用者の獲得については、利用待機者が減少している状況もあり、市町村や居宅介護支援事業所などの関係機関と連携を図り、情報を共有し利用者の確保につなげた。

利用者の重度化対応に向けて口腔ケア、おむつ外し、認知症ケア等については、継続して取り組んだ。介護職員の基礎介護力向上については、理学療法士を講師に施設内研修で取り組みを図った。

短期入所については、自宅生活支援に向けて、緊急入所の受け入れを実施し努めてきた。

①介護部門 利用者や家族の意向を計画に取り入れ、状態に合わせて計画を変更し、各利用者のニーズや状態に合った個別支援計画の作成に取り組んだ。

②医療部門 定期的に委員会を開き、感染症の予防に努めた。併設する施設からの感染症予防のため、往来の制限と外部からの面会制限を行つた事で感染症の発生は起きなかつた。

■地域密着型特別養護老人ホーム 新得やすらぎ荘

開設3年目で引き続き職員の育成に努めた。また、ユニット型特養の利点を生かすサービスのため、利用者や家族の意向に耳を傾け希望に沿った対応が出来るように家族交流会の開催時や個別に面会時に家族に聞き取りを行つた。

①利用者サービス ユニットで少人数のケアを実践して、モニタリングを実施し、ケアプランに基づいたサービスの提供に努めた。

②介護部門 利用者や家族の意向を計画に取り入れ、状態に合わせて計画を変更し、各利用者のニーズや状態に合った個別支援計画の作成に取り組んだ。

■訪問介護事業所 新得やすらぎ荘

①訪問介護サービス

利用者の望む在宅生活が出来るように必要な援助を相談し、利用者が利用しやすい訪問事業所となるように努めた。また、自立支援・介護予防の視点に立ち、日々の介護サービスを行う事が出来た。

社会的な人材不足と言われる中、当事業所でも人手不足な状態だったが、新規利用者を断ることなくサービスを提供することが出来た。

近隣町村を含めて訪問事業所が不足しており、特に鹿追町や清水町からの新規利用者が目立った。

②障害福祉サービス

自立支援の視点に立ちつつ利用者本位のサービスに努め、在宅における障害者だけではなく、その家族への気配りも行うよう努めた。

■居宅介護支援事業所 新得やすらぎ荘

利用者の自立支援、状態の悪化防止のために、利用者と家族の意向を尊重しながら、専門職としての総合的なケアマネジメントを行い、ケアプランの作成、各サービス事業所等の連携を図り、適切なサービスが提供されるよう調整を行った。

新得町（地域包括支援センター）及び他の居宅介護支援事業所、関係施設等の連携を継続的に図ることで、当事業所への利用者の受入だけでなく、関連する法人内事業所への新規利用者の紹介を行うことを継続して務めた。

当事業所が主体となって作成したアセスメントツール（他機関との連携ツール）を新得町ケアマネジャー連絡会に提供し、地域のケアマネにおける共有ツールとして活用され始めたことで地域全体におけるケアマネジメントの底上げを図った。

■日帰りサービスセンター やすらぎ荘

利用者が可能な限りその居宅において自立した日常生活を営むことができるよう、入浴および食事の提供、選択的サービスの実施や活動動作に関連する機能訓練の実施をした。

また、健康状態の確認やその他必要な日常生活の支援を行い、利用者の健全で安定した自宅の生活の助長、社会的孤立の解消、心身機能の維持向上等を図るとともに、利用者家族の身体的・精神的負担の軽減を図った。

■清水デイサービスセンター やすらぎ荘

地域で在宅生活が継続できるよう、心身機能訓練から生活行為力向上訓練までの総合的な支援を重視し、在宅での生活状況や興味・関心のあること等把握した上で適切なりハビリテーションの提供を目的とし、理学療法士、看護職員、介護職員、生活相談員が共同して、リハビリの計画・実施・評価を行った。

また、制度改正に向け外部研修や職員勉強会に参加し、理解を深めることに努めた。

■日帰りサービスセンター やすらぎ荘 たんぽぽ

利用者が可能な限り居宅において、その能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、生活等に関する相談及び助言、健康状態の確認そのほか必要な日常生活上の支援機能訓練等のサービスを行った。

また、利用者の安定した生活の促進、心身機能の維持向上を図った。

■屈足わかふじ園

法人の基本理念及び職員倫理綱領、行動規範を遵守、利用者の自立と人権の尊重を基本に、サービスの充実を図るように努めた。

利用者への支援については、個別支援計画に基づき、利用者個々のニーズに応じた支援を実施し、定期的にモニタリングを行う上で支援内容の見直しや確認を行った。

イベントでは、8月に開催予定だった「きずなの郷まつり」を台風の影響で中止とし、利用者と職員のみの食事会を行った。

食事面については、「駅弁メニュー」の日を月1回設け、変化のある給食を提供した。

職員については、介護職員の欠員補充に向けて様々な求人活動を行ったが、慢性的な介護職員不足となった。

災害対応については、9月に発生した北海道胆振東部地震において被災された（社福）北海道厚真福祉会の利用者（6名）の受け入れ対応を11月上旬まで行った。

施設整備に関しては、感染予防対策として大型加湿器の整備、猛暑対策としてエアコン設備の整備、適温給食の充実のため、萬田記念財団の助成金を活用し温冷配膳車を整備した。

以下、事業計画と対比する形で報告する。

①介護部門

個別支援計画の支援内容を基に、変更があった利用者のニーズをその都度各部署と共有し、サービスの提供を行った。

②医療部門

日々の観察により、利用者個々の状態を把握し、かつ介護員と連携して、体調の変化があれば、速やかに対応をする様に努めた。

健康診断の結果と体重推移の状況により、食事量と間食の調整や補食をするなど、介護員や栄養士に相談して対応を進めた。

■養護老人ホーム ひまわり荘

関係法令を遵守し、介護サービス計画書並びに個別支援計画書に基づき、利用者の意向と状態に応じた質の高いサービスを提供した。必要時には関係機関や医療機関との連携を図った。

また、利用待機者に対して行事開催に合わせ「ひまわり荘を知っていたいただく会」を開催し、円滑な受け入れに努めた。

さらに、委員会では抑制防止及び虐待防止、事故防止の徹底や感染症の予防等を行うと共に経費削減に取り組んだ。

①介護部門

介護サービス計画を定期（3か月）、また身体状態の変化に合わせて見直しを行った。サービス担当者会議を開催し、本人のニーズに合ったサービスを提供できるよう介護サービス事業所と連携した。

②看護部門

体調の確認及び状態観察を実施し、体調不良時は医療機関へ報告及び受診した。

看護経過連絡表を活用し個々の状態を各部署に伝達した。

■訪問介護事業所 ひまわり荘

介護保険法令を遵守し、特定施設において作成したサービス計画書を基に訪問介護サービス計画書を作成し、利用者が有する能力に応じた日常生活を営む事ができるようサービス提供を行った。また特定施設、サービス提供事業者と連携を密にし、内容に変更があった際は迅速に対応した。

平成30年度決算報告

平成31年3月31日

財産目録

(単位：円)

資産の部		
科 目	摘 要	金 額
流動資産		895,513,656
固定資産		5,775,682,410
資産合計		6,671,196,066

負債の部		
科 目	摘 要	金 額
流动負債		160,927,350
固定負債		323,828,893
負債合計		484,756,243
差引正味資産		6,186,439,823

貸借対照表

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	895,513,656	流动負債	160,927,350
固定資産	5,775,682,410	固定負債	323,828,893
		基本金	14,500,000
		国庫補助金等特別積立金	3,291,239,415
		その他の積立金	1,033,694,861
		次期繰越活動収支差額	1,847,005,547
資産合計	6,671,196,066	負債純資産合計	6,671,196,066

事業活動収支計算書

科 目	金 額
介護保険事業収益	495,562,375
老人福祉事業収益	278,640,701
就労支援事業収益	207,381,941
障害福祉サービス等事業収益	715,533,454
生活保護事業収益	18,973,460
その他の事業収益	14,921,705
経常経費寄附金収益	5,946,820
借入金利息補助金収益	59,998
受取利息配当金収益	102,871
その他のサービス活動外収益	12,598,213
施設整備等補助金収益	10,378,002
固定資産売却益	100,000
その他の収益	43,327,000
収入合計	1,803,526,540
人件費	959,474,604
事業費	279,547,764
事務費	226,526,140
就労支援事業費用	199,836,728
利用者負担軽減額	1,804,235
減価償却費	153,696,809
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 103,536,028
徴収不能額	19,062
徴収不能引当金繰入	990,000
支払利息	1,227,138
固定資産売却損・処分損	1
国庫補助金等特別積立金積立額	800,000
支出合計	1,720,386,453
当期活動増減差額	83,140,087
前期繰越活動収支差額	1,830,409,154
その他の積立金取崩額	7,650,000
その他の積立金積立額	74,193,694
次期繰越活動増減差額	1,847,005,547

資金収支計算書

科 目	金 額
介護保険事業収入	495,562,375
老人福祉事業収入	278,640,701
就労支援事業収入	207,381,941
障害福祉サービス等事業収入	715,533,454
生活保護事業収入	18,973,460
その他の事業収入	14,921,705
借入金利息補助金収入	59,998
経常経費寄附金収入	5,946,820
受取利息配当金収入	102,871
その他の収入	12,598,213
施設整備等補助金収入	10,378,002
固定資産売却収入	100,000
積立資産取崩収入	7,657,206
収入合計	1,767,856,746
人件費支出	917,661,604
事業費支出	279,547,764
事務費支出	226,526,140
就労支援事業支出	195,406,263
利用者負担軽減額	1,804,235
支払利息支出	1,227,138
流動資産評価損等による資金減少額	19,062
設備資金借入金元金償還支出	25,752,000
固定資産取得支出	13,000,385
固定資産除去・廃棄支出	1
ファイナンスリース債務の返済支出	1,285,884
積立資産支出	74,200,900
支出合計	1,736,431,376
当期資金収支差額	31,425,370
前期末支払資金残高	743,090,936
当期末支払資金残高	774,516,306

自治会PG大会 ～天候不良もなんのその～

6月15日（土）に自治会パークゴルフ大会を開催しました。心配していた通り朝からあいにくの空模様。あえなく一部、室内で行えるフロアカーリングに切り替えて行いました。急遽にもかかわらず、フロアカーリングは白熱した試合が繰り広げられ大盛り上がり。パークゴルフ会場は小雨で濡れていましたが、皆さん気にすることなく思いっきりプレーを楽しめていました。昼食は食堂でジンギスカン鍋を囲んで互いの健闘を称えあい、楽しい時間を過ごされました。



▲ナイスショット！…って空振りか？



▲よ～く狙って！白熱したシーソーゲームでした！

やすらぎ荘

日帰り旅行

～風景巡り・温泉・ドライブなどを楽しみ、気分転換～

今年の日帰り旅行は、昨年までとは違う場所を中心に、6日間に分かれて行いました。

今年は、道の駅しほろ温泉、ナイタイ高原牧場、日勝峠第一展望台を計画しました。

道の駅しほろ温泉では温泉に入り、気持ち良く汗を流した後に、ピア21しほろでソフトクリームを購入し、美味しくいただきました。また、ここでしか買えないグッズを購入したりして、買い物も楽しまれました。

ナイタイ高原牧場は、悪天候により景色を楽しむ事が出来ませんでした。参加された利用者は残念がっていましたが、来年もまた行きたいという声が多数聞かれ、来年こそは良い天気になることを利用者・職員で祈りました。

日勝峠第一展望台は、天気も気温も丁度良く、十勝平野を一望できるくらいの絶景を観賞してきました。とても良いドライブ日和となりました。

また来年も、利用者に満足していただける楽しい旅行を計画しようと思います。



▲温泉気持ちよかったですな～(^_^)♪



▲牛丼美味しかったなあ(*^_^*)v

One Man Digital Orchestra佐藤春美オールスター演奏会 ～1人で多種多様の楽器を演奏～

6月26日に今年で8回目となる佐藤春美さんの演奏会を行いました。

佐藤さんは陸上自衛隊第5音楽隊のサックス奏者としてご活躍をされておりましたが、3年前の12月に定年を迎えて退職。一昨年の1月からは、サックス教室・作曲・レコーディング・CD作成などを業務とする「佐藤春美ミュージックプランニング」を設立し、今日に至っています。

1人でサックスやエレキギター、ウィンドシンセサイザーなど多彩に楽器を奏で、大迫力の演奏でした。また今回は施設のお隣、屈足保育園の年中さんと年長さんにもお越しいただき、『名探偵コナン』から『演歌メドレー』など、利用者の世代に合わせた選曲を披露されました。

最近の曲からは、米津玄師さんの「レモン」も演奏していただき、利用者・職員共々拍手が絶えず、トークを交えて1時間は、あっという間に時間が過ぎた演奏会でした。

来年もぜひよろしくお願いします。



▲多彩に楽器を奏でる佐藤さん

▲あっという間の1時間でした。
楽しかったです！

新得やすらぎ荘

セラピー犬

～いつも癒やされています～

5月12日、新得やすらぎ荘にセラピー犬が来荘され、利用者15名が参加されました。月に1度の行事なので、朝から「どんなワンちゃんが来るのか楽しみだわ。」と胸を躍らせている様子でした。その後セラピー犬が目の前に来ると「めんこいねー。」「こっちおいでー」とニコニコしながら話されていました。セラピー犬を抱っこした利用者からは「私ワンちゃんの考えている事分かるのよ。電波でね。」と笑って話していました。セラピー犬との交流を終えると「ワンちゃん帰っちゃった。」「また来てくれるかな？」と少し寂しそうに話され、早くも次の来荘を心待ちにしているようでした。



▲毎月の楽しみなのよねー



▲ワンちゃん可愛すぎて癒されるー

家族交流会 ～皆さんと楽しい一時を～

5月19日、家族交流会を行いました。17名の利用者の皆さんと、13名のご家族の方に参加していただいているいます。

職員からは、担当の利用者の方の紹介、医療や食事に関すること、年間の行事に関するなどをお話ししています。また、行事やクラブ活動などで撮ったたくさんの写真をスライドショーにして、利用者の皆さんとの施設内での様子をご覧いただきました。

利用者の方からは「お菓子がおいしかったよ」、ご家族の方からは「良い雰囲気だと思います」というお言葉をいただいています。

来年度も家族交流会を行う予定ですので、職員一同楽しみしております。



▲皆さん真剣に参加されていますね



▲施設長から利用者・ご家族へのお話

新得保育所交流会 ～可愛い子供たちとの交流に笑顔～

6月24日、新得保育所キリン組の子供達18名が歌『ガンバリマン』・遊戯『マスカット』・手遊び『パンパンパン屋さん』を披露してくれました。子供達の元気な歌声や踊りが始まると利用者は笑顔で声援を送っていました。

子供達から「いつまでも元気でいてね」と言葉のプレゼントを頂いた後、利用者からお菓子を渡し、握手をして交流会を終えました。利用者からは「やっぱり子供は可愛い」、「次に会うまで元気でいいといけないね」と話されていました。



▲元気いっぱいの歌声



▲握手をしてお別れ

「平成31年度 新職員紹介」



屈足わかふじ園
介護職員
藤原 栄



屈足わかふじ園
介護職員
平田 涼子



やすらぎ荘
支援員
五日市真紀



やすらぎ荘
支援員
西嶋 茜



わかふじ寮
生活支援員
栗山 美穂



新得やすらぎ荘
事務職員
渡辺 美羽



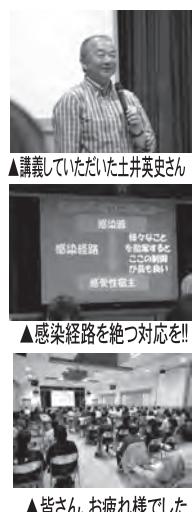
新得やすらぎ荘
介護職員
小林 広輝

法人職員研修会 ～今回の研修は感染症対策～

5月17日に法人職員全体の研修を行いました。

今回の研修は「全職員で取り組む感染対策」という題材で、講師にNPO法人日本感染管理支援協会理事長の土井英史さんを迎えるました。土井さんは看護師の資格を持ち、全国各地の病院で看護長やコーディネーターとして勤務されてきた経験から、感染対策についての基本的な考え方や対応方法の講義をしていただきました。

研修については、法人の職員だけではなく町内の福祉関係者にも呼びかけたところ、職員と合わせ総勢約120名が参加し、施設内だけではなく家庭や地域を挙げて対策に取り組む重要性を学びました。



▲皆さん、お疲れ様でした

わかふじ寮

桜の植樹をしました ～わかふじ寮家族会緑化整備事業～

わかふじ寮、やすらぎ荘周辺の老木が、台風などで倒れる危険性があるため、一斉に伐採を行いました。施設周辺の景色はすっきりとしたものの、どこか寂しくなってしまいました。

そこで、5月30日にわかふじ寮家族会で、施設周辺の緑化整備の一環として、やすらぎ荘東側道路沿いにエゾヤマザクラを10本植樹しました。植樹にはわかふじ寮家族会から川崎会長と山口副会長にご参加いただき、鈴木理事長、桑原常務をはじめとして、わかふじ寮、やすらぎ荘の職員で植樹を行いました。

まだしばらく時間はかかりますが、大きく成長すれば、春には満開の桜並木が利用者の皆さんに見ていただけると思います。それまで楽しみにしていてください。



▲皆で1本ずつ植樹しました



▲早く大きく成長しますように

行事予定

各施設の行事予定(8月～11月)

わかふじ寮

- 9月 合同運動会
- 10月 文化祭

ひまわり荘

- 8月 盆法要・喫茶店
- 9月 合同運動会・秋彼岸法要
- 10月 移転記念食事会・日帰り旅行・居酒屋(収穫祭)
- 11月 保育所交流会・鍋の会

屈足わかふじ園

- 8月 夏の夕べ・花火大会・きずなの郷まつり
- 9月 避難訓練
- 10月 味覚祭
- 11月 十勝ウインドシンフォニー演奏会
屈足手打ちそばの会訪問

新得やすらぎ荘

- 8月 七夕花火大会・納涼映画会
- 9月 合同運動会・秋の味覚祭
- 10月 紅葉ドライブ
- 11月 鍋の会・長寿の祝

法人新年度会

～今年は新年会ではなく、新年度会～

4月5日に法人新年度会を行いました。

例年1月に新年会を行っていましたが、昨年末からインフルエンザが蔓延しており、各施設で利用者や職員が罹患する状態が続いているため、やむなく新年会を延期し、新年度会という形で行いました。

この会は新年を迎えるに当たり、法人役員と職員が一堂に会し、理事長からの訓示を受け、新年を祝う交歓会として行っています。

会中には、新人職員紹介やお楽しみ抽選会を行い、和やかな雰囲気で年度初めの法人行事を楽しみました。



▲理事長より新年度の訓示



▲緊張の新人職員紹介



▲今年度も頑張りましょー!!

清水基金より助成をいただきました ～ワイドベルトサンダーを導入～

今年度、清水基金様より助成をいただき、わかふじ寮のワイドベルトサンダーを更新しました。ワイドベルトサンダーは木工作業棟で使用している、木材を研磨する大型の機械ですが、これまで使用していたものは1990年式の台湾製で、型式が古いため、故障した際の部品提供もなく、代用の部品を探して何とか稼働していました。しかし機械の調整には大変な時間がかかり、効率的に製品の作成を行うことはできませんでした。そこで、昨年度、清水基金の助成事業に応募し、この度、500万円の助成を受けることが決定しました。

6月22日に新しい機器が納品され、現在順調に稼働しています。新しい機器が導入されたことで、誤作動が無く利用者も正確に作業ができるようになりました。作業効率も上がりました。今回助成をいただいた社会福祉法人清水基金様には心から感謝申し上げます。



▲新しい機械で作業効率が上がりました

やすらぎ荘

- 8月 七夕花火大会・納涼映画会・茶道
- 9月 合同運動会・秋の味覚祭
- 10月 施設旅行(1泊2日)・全道ろうあ大会・全国高齢者競技大会
- 11月 町民芸能芸術祭・帯広外出・鍋の会・長寿の祝

地域新得やすらぎ荘

- 8月 七夕花火大会・納涼映画会
- 9月 合同運動会・秋の味覚祭
- 10月 紅葉ドライブ
- 11月 鍋の会・長寿の祝

